

地方創生 × 少子化対策 提出資料

少子化社会への処方箋

～家庭を支える新たなつながりづくり～

NPO法人子育てひろば全国連絡協議会
奥山千鶴子

活動紹介

◎NPO法人びーのびーの 横浜（2000年～現在）

・地域子育て支援拠点事業（3ヶ所）

おやこの広場びーのびーの

港北区地域子育て支援拠点どろっぷ

港北区地域子育て支援拠点どろっぷサテライト



港北区地域子育て支援拠点

どろっぷ どろっぷ サテライト

・ファミリー・サポート・センター事業（どろっぷ内）

・利用者支援事業基本型（どろっぷ、サテライト内）

・小規模保育事業

ちいさなたね保育園（19人定員）

・預かり保育まんまーる（2～3歳児のグループ保育）

・地域福祉交流スペースCOCOしのはら

認定NPO法人になりました！



預かり保育

まんまーる

地域福祉交流スペース

COCOしのはら



◎NPO法人子育てひろば全国連絡協議会（2007年～現在）

・地域子育て支援拠点事業者の中間支援組織

会員 1,300（平成31年1月現在） **昨年より100団体増！**

◎にっぽん子育て応援団企画委員（2009年～現在）

・子育てしやすいにっぽんを目指して **今年10周年！**



子育てひろば全国連絡協議会

設立趣旨書

乳幼児期の子育て家庭に向けての交流の場が、全国各地に広がってきた背景には、
核家族化で世代間の子育て文化伝承が難しくなってきたこと、
顔の見えるかたちでの地域の支えあいの力が弱くなってきたこと、
さらには、親の就労時間が長く、夫婦が協力して子育てを担う環境が整っていないこと、
などの現状があります。このような現状を打開しようと、
子育て当事者(親)や子育て支援者たちが、
自分たちで地域の中に居場所を確保して、
親同士が気兼ねなく交流し、お互いに支え合い、情報を交換し、学びあう場を生み出し、
子育ての第一歩を支えていこうと活動してきました。
このことは、多様な関わりの中で、
子どもも親も育つ環境を地域の中で、
再構築する営みでもありました。

こうして各地に広がってきた居場所を「子育てひろば」と定義します。

地域子育て支援拠点・子育てひろばとは？

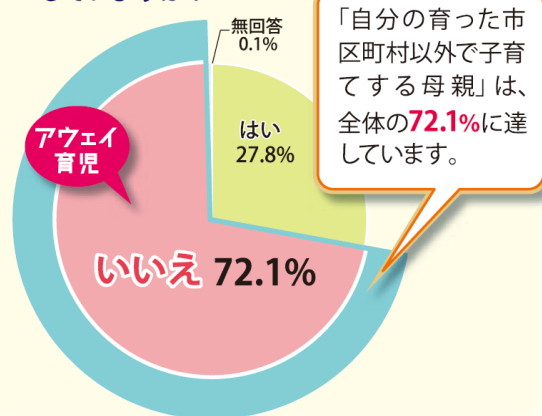
- ◎対象者 概ね就園前の乳幼児とその養育者
- ◎設置数 全国に、7, 200か所以上
- ◎場所 保育所併設、公的施設内、児童館、商店街、
一戸建て、空き家活用等
- ◎法的根拠 児童福祉法、子ども・子育て支援法



地域子育て支援拠点における「つながり」に関する調査研究事業

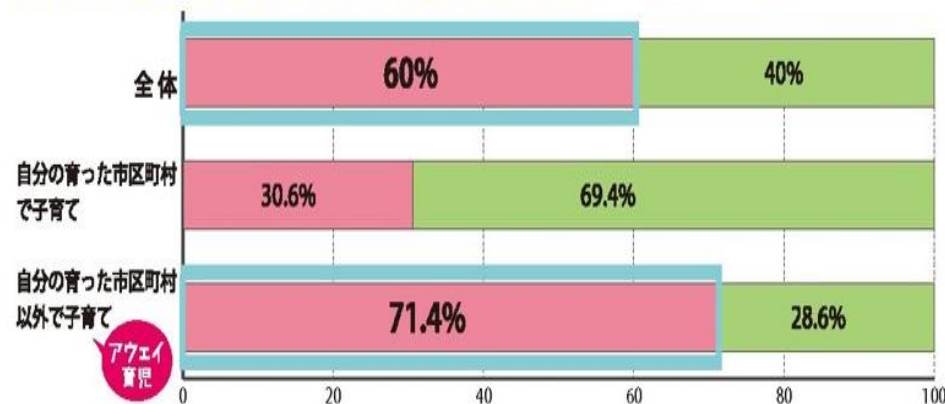
「地域子育て支援拠点事業に関するアンケート調査 2015・2016」

Q. あなたが育った市区町村で、現在子育てをしていますか？

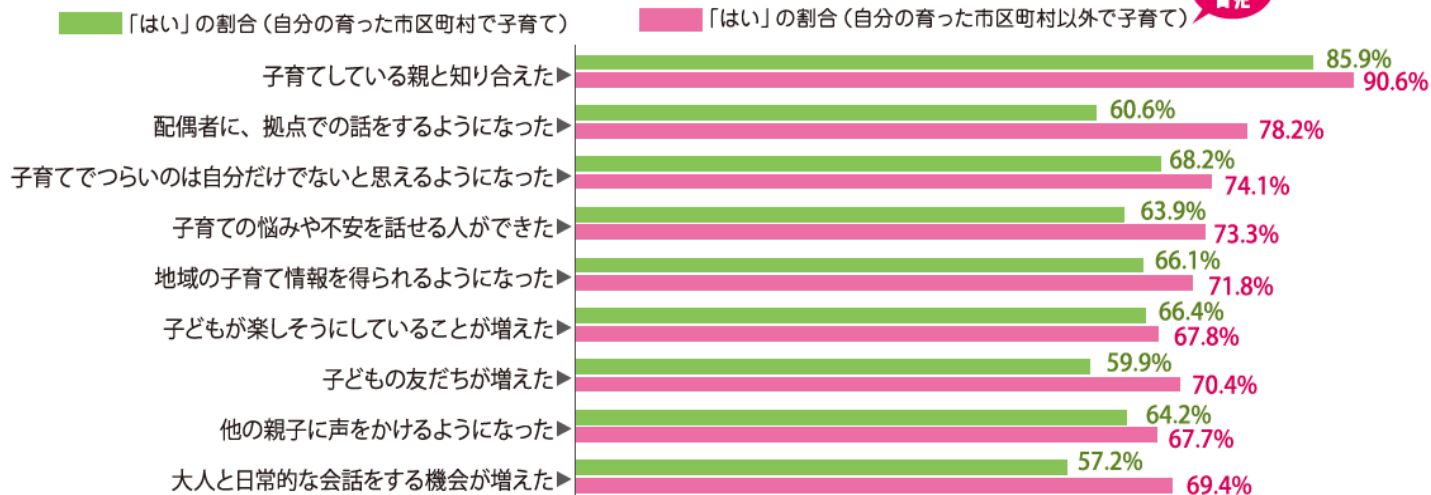


Q. 近所で子どもを預かってくれる人はいますか？

いいえ はい



Q. 地域子育て支援拠点を利用した後のあなたとあなたの子どもについて、得られたこと、変わったことなど、次の文章の中で少しでも当てはまることすべてに○をつけてください。



アウェイ育児とは

自分が育った市区町村以外で子育てをしている母親

知り合いのいない土地で母親が感じる孤立感、手助けが得にくい中での子育ての負担感。日々、拠点の支援者は、数多くの母親から切実な声を受け止めています。自分の生まれ育ったまちから離れた場所での子育ては、物理的な手助けの不足にとどまらず、心理的に孤立しているという状況をもたらし、「アウェイ感」を母親に与えているものと考えられます。

(ひろば全協理事 調査研究担当 岡本聡子)

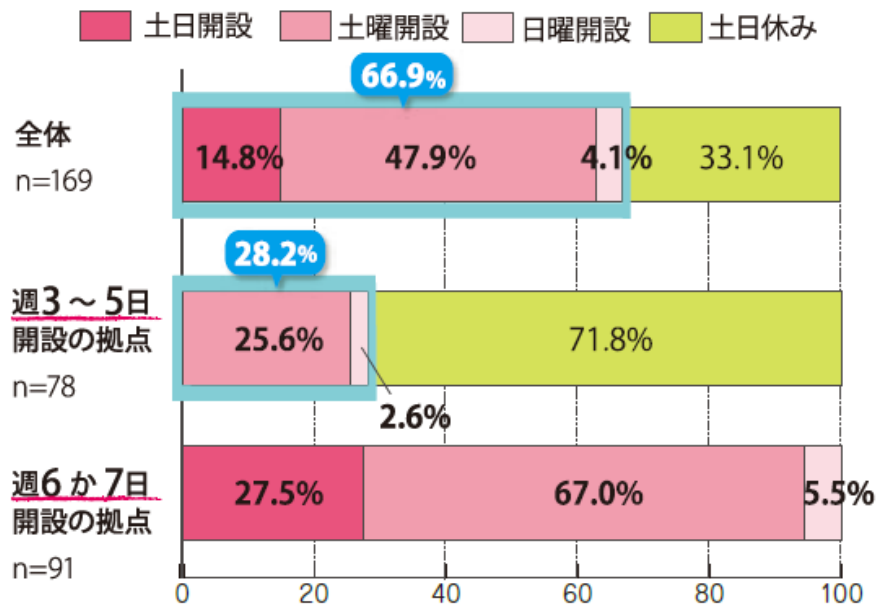
地域子育て支援拠点における「つながり」に関する調査研究事業

団体の状況

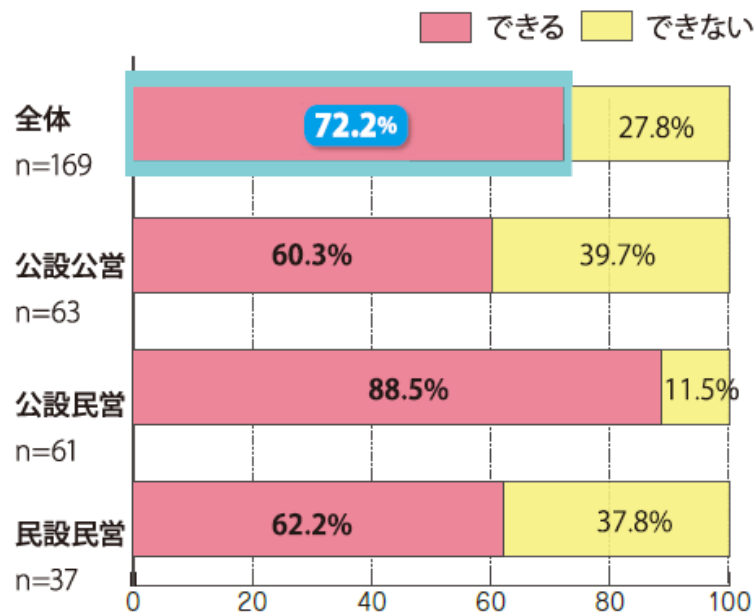
- ▶ 土日両日またはどちらか開設している拠点 **66.9%**
- ▶ 週3～5日の開設であっても、土曜または日曜に開設している拠点 **28.2%**
- ▶ 昼食を取ることができる拠点 **72.2%**

利用者の拠点利用後の効果（30項目）と、拠点の取組みを統計処理したところ「土日の開設」「拠点で昼食をとることができる」の取組みで高い有意差がみられました。（t検定）

Q.土日に拠点を開設していますか



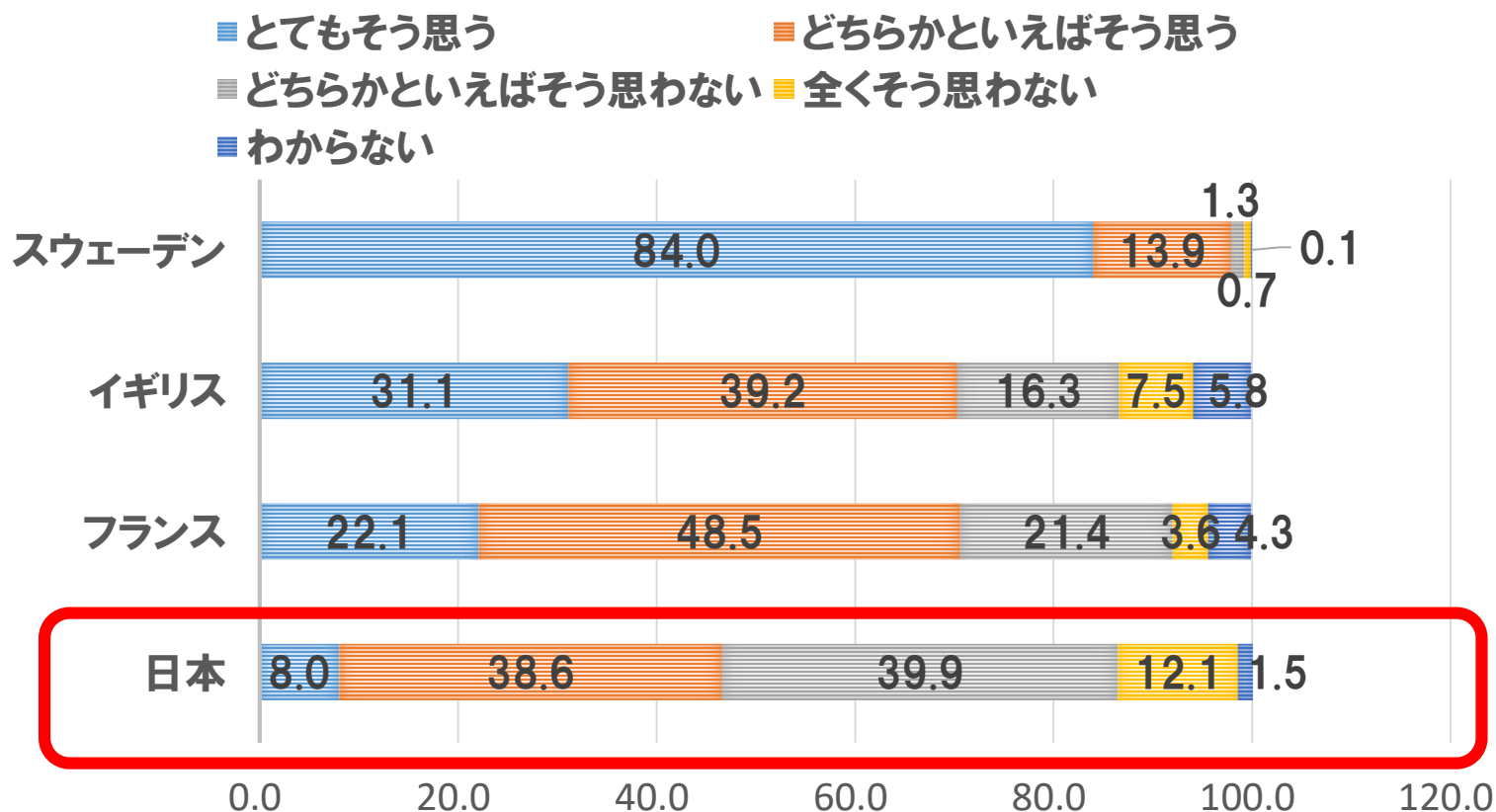
Q.拠点内で昼食を取ることができますか



地域子育て支援拠点で生まれる「つながり」とは、親子が自己肯定感を育み 家庭を超えた広がりを持ち 地域社会の一員として 生涯にわたり 安心と信頼に基づくあたたかい関係性の連鎖を自ら紡ぎだす一歩である

子育てのしやすさ 諸外国との意識の比較

自分の国は、子どもを産み育てやすい国だと思うか

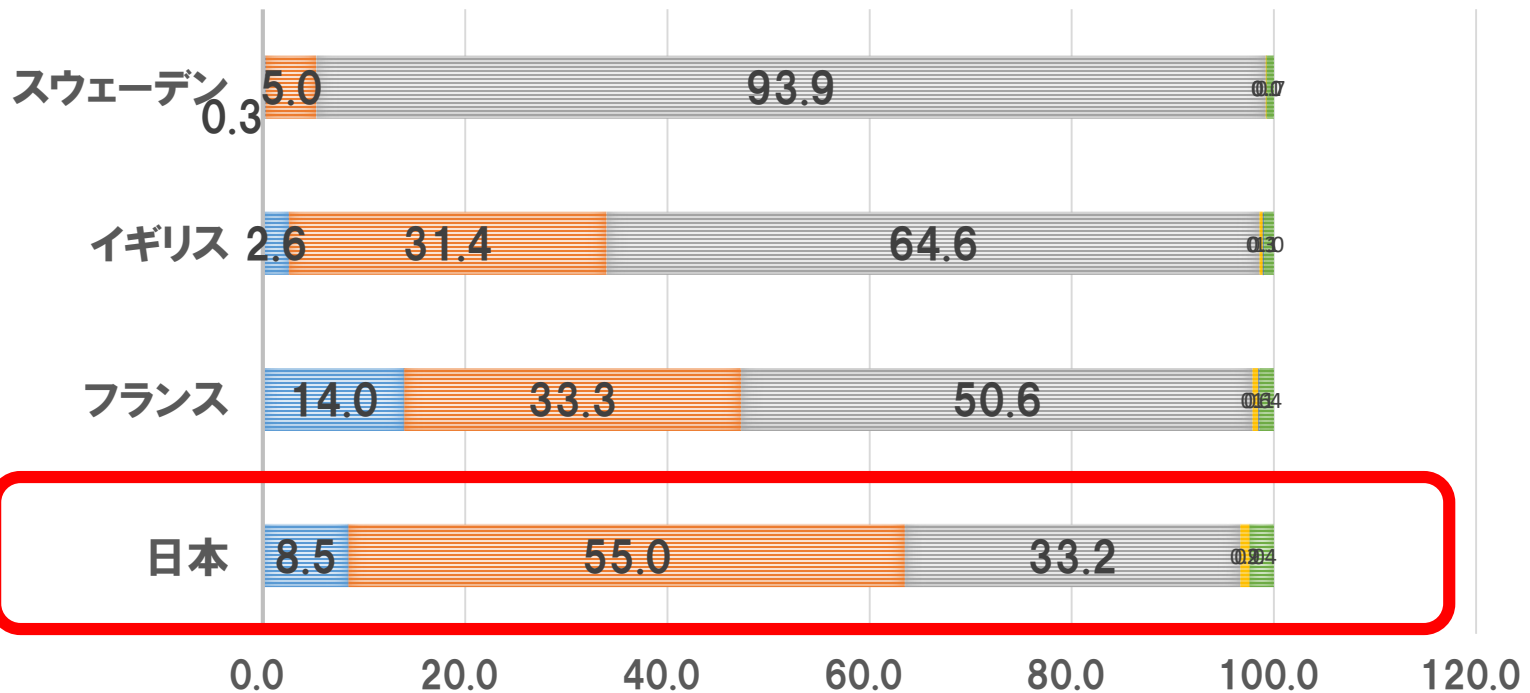


内閣府「平成27年度少子化社会に関する国際意識調査」より作成

性別役割分業観 諸外国との意識の比較

「小学校入学前の子どもの育児における夫・妻の役割について」

■ もっぱら妻が行う ■ **主に妻が行うが夫も行う** ■ 妻も夫も同じように行う
■ 主に夫が行うが妻も行う ■ もっぱら夫が行う ■ わからない



内閣府「平成27年度少子化社会に関する国際意識調査」より作成

家庭教育が困難になっている社会

文部科学省「つながりがつくる豊かな家庭教育」
～親子が元気になる家庭教育支援を目指して～

(平成24年3月家庭教育支援の推進に関する検討委員会報告書より)

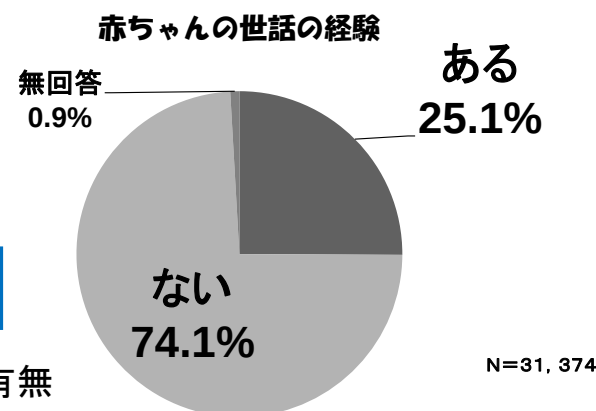
○家庭教育力の低下ではなく、家庭教育が困難になっている社会との認識が必要。

○現代の子育て家庭に対して、望ましい家庭教育が行われていないと厳しい見方もされがちだが、家庭生活や社会環境の変化によって、子どもの育ちが難しくなっているという面を十分理解する必要がある。



横浜市のニーズ調査結果(平成26年)

子どもが生まれる前の、赤ちゃんの世話の経験の有無





**子育て家庭の孤立、支えられ感のなさを
払拭したい！**

提言1 産前からの切れ目ない支援

(1) 妊娠期からの父親の参画と子育てのイメージ作り

- ・出産準備教室、両親学級等への男性の参画が当たり前になる（男女共に休暇がとれる）

- ・男性も、沐浴、おむつ替え等基本的ケアを学ぶ

- ・先輩パパママから出産後の生活を学ぶ

(2) 地元自治体の制度やサービスを知る

- ・健診、保育・教育施設やサービス、地域子育て支援等

(3) 地域の知り合いや仲間を増やす

妊娠期からの切れ目ない支援

プレママ・プレパパ応援プロジェクト

プレママ
プレパパ

ようこそ
地域子育て
支援拠点へ



「地域子育て支援拠点どろっぷ」での取り組み

妊娠期を安心して過ごせるように、パパになる方をはじめ、
家族とともに、またママになる方だけでも参加できる
「ようこそ！赤ちゃん」メニューを区内各地域で開催。

- 土曜日両親教室**（行政、助産師、地域との協働で実施）
平成30年度より、地域子育て支援拠点や地域の会場で
30回以上土曜日に開催予定
- 子育てひろばのプレママプレパパ向けプログラムの実施**
 - ・ハロー赤ちゃんカフェ ・マタニティソーイング
 - ・プレママDAY 等 ・マタニティ&ベビーDAY

両親教室区内全域開催

2018年度版

港北区役所の両親教室

平日・土曜
開催

3回講座でしっかり学べる

実施時間 平日 14:00～16:00(受付 13:30～)
土曜 10:00～12:00(受付 9:30～)

会場 港北区役所 1階子育て支援室

持ち物 母子手帳、母子「子育てガイドブックどれどれ」
※母子は母子健康手帳交付時に配布

内容 第1回 妊娠中の栄養・産科衛生・情報交換
第2回 産後の母の心と体・赤ちゃんとの生活について
先輩ママの体験談・体験について
第3回 お産の経過・出産後の手続や授乳について
情報交換 地域情報の提供

お問い合わせ

港北区役所
こども家庭支援課 こども家庭支援担当
TEL: 045-540-2365
港北区大倉山町 20-1
(大倉山駅徒歩7分)



①第2回日の開催日が土曜日の場合のみ、先着40組の事前予約制となります。
予約は港北区ホームページからお願いします。
<http://www.city.yokohama.lg.jp/kohoku/saibou/kodomo/ryoushinkyuushitsu.html>

出席予定月	実施月	第1回	第2回	第3回
2018年	8月	9月(月)	16日(月)	23日(月)
	9月	5日(月)	7日(月)	12日(土)
	10月	6日(月)	4日(月)	11日(月)
	11月	7日(月)	2日(月)	9日(月)
	12月	8日(月)	6日(月)	11日(土)
2019年	1月	9日(月)	5日(水)	10日(水)
	2月	10月	15日(月)	22日(月)
	3月	11月	5日(月)	10日(土)
	4月	12月	5日(水)	10日(水)
	5月	2019年	1月	7日(月)
	6月	2日(月)	4日(月)	9日(月)
	7月	3日(月)	4日(月)	11日(月)

KOHOKU

にんしん あんしん
@セレクト

港北区「両親教室」のごあんない

港北区では、妊娠期を安心して過ごせるように、
パパになる方をはじめ、家族とともに、またママになる方だけでも参加できる、
「ようこそ！赤ちゃん」メニューを地域のさまざまな場所で開催しています！
新しい家族として、赤ちゃんの誕生を安心して迎えるための準備を、
助産師や地域の人たちと一緒にしていきましょう。
自分の出産予定日や参加しやすいカタチを選んで足を選んでみてください！

どろっぷからのお知らせ

マタニティー&ベビーDAY

妊娠中の方と0歳児の親子対象。はじめてのお出掛けに。
赤ちゃんとの触れ合いや子育て情報など。

どろっぷ サタライト 毎月1回 土曜日

あつぷぷ

第1子生後2～4ヶ月の親子対象。はじめての子育てがスタート
したばかりのママと赤ちゃんのための2回連続プログラム。

どろっぷ 月2回(連続参加) 水曜日
サタライト 火曜日(原則)



港北区地域子育て支援拠点
どろっぷ
TEL: 045-540-7420
FAX: 045-540-7421
港北区大倉山 3-57-3
(大倉山駅徒歩8分)



港北区子育て支援アプリ
ココアプリ

港北区の子育て情報アプリで
受けられるようになりました！
ココアプリでは、両親教室やイベント
などの子育て情報も毎週配信。
防災・防災、行政からののお知らせ
も送ります。
スマートフォン
「ココアプリ」
で検索！

港北区地域子育て支援拠点
どろっぷサタライト
TEL: 045-633-1078
FAX: 045-633-1072
港北区綱島東 3-1-7
(綱島駅北口徒歩3分)



お問い合わせ先

港北区地域子育て支援拠点 どろっぷ
TEL: 045-540-7420 / 〒222-0037 横浜市港北区大倉山 3-57-3
地図出版 『びーのびーの 幼稚園・保育園ガイド』(NPO法人びーのびーの発行) / デザイン・レイアウト kspace



区役所
開催の両親教室

3回講座でしっかり学べる

広い会場での大々開催。3回連続講座なので講座内容を復習して、地域で
一緒に子育てをする仲間と知り合える機会となります。

開催場所 港北区役所
期 間 平日(年4回土曜開催を含む) / 予約なし(土曜日は予約あり)



地域
開催の両親教室

効率よく学べて、体験もできる

講義に加え、体験、先輩ママとの交流もプラス。赤ちゃんの抱っこやおむつ替え
体験などができます。1回限りのダイジェスト版での開催です。

開催場所 区内3ヶ所の「地域ケアプラザ」「子育て支援センター」「どろっぷ・どろっぷサタライト」
期 間 土曜日 / 予約あり



身近な
子育てひろば
開催のプログラム

アットホームな場所で学べて交流できる

地域密着型のマタニティープログラムが、身近な場所でユニークな内容で開催。少人数
のアットホームな場で、これから地域と一緒に子育てをする仲間と出会えます。すぐに
相談できる場との繋がり、ご近所さんとお会いするなど地域ならではの繋がりが得られます。

開催場所 区内5ヶ所の「親子のついで」広場「アットどろっぷ・どろっぷサタライト」
期 間 会場ごとに異なります / 原則予約あり

※地域ケアプラザ 中学校区に1ヶ所ずつ整備されています。地域交流コーディネーター・他専門職がいて、保健・医療サービス等身近な場所で総合的に提供できる施設です。
※子育て支援センター 地区によっては駅前や商業施設と併設しています。地区ごとにある場合で、今年開催される「子育て支援センター」は、出張型で複数地区で開催されています。
※親子のついで 港北区に上ったとたんにも育ちあえる場所のひろばが充実しています。地域中から5歳～3歳児の親子がいつでも気軽に立ち寄り参加しやすい環境を整えています。

提言2 地域の子育て支援情報の見える化

- (1) ほしい情報が、一元化されている
- (2) その日の、地域の行事がわかる
- (3) サービスの概要がわかり、WEB申し込みができる

ファミリー・サポート・センター事業、子育てヘルパー事業、一時預かり事業等

子育て支援のサービスは、利用する当事者の目線で、改善が必要です。

まずは、市区町村がIT化をすすめる予算措置が必要。

提言3 子育て支援サービスの拡充

- (1) 産後支援メニューが増えない
 - だから里帰り出産
- (2) 家事支援・アウトソーシングが進まない
 - 高額、担い手不足
- (3) 母親規範を求める世間、縛られる母親
 - もって気軽に、もっと手軽に
親の学びの機会、ちょっと先輩ママパパとの
交流機会
- (4) 気軽に相談できる機会や場所

提言4 地域子育て支援拠点における多機能化の推進

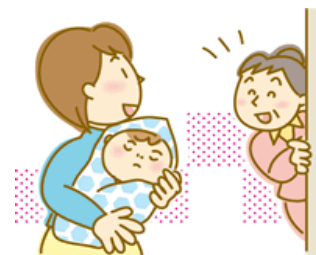
複数の事業間で情報共有や必要なつながりが出来て、決め細やかな支援が可能

拠点に来たついでに気軽に相談

相談支援
(相談・利用者支援事業等)



訪問員さんから紹介してもらって拠点にGO!



拠点に来たついでにファミサポの登録が出来て便利

拠点からつながる出口機能

事業間の連携

地域子育て支援拠点

拠点につながる入口機能

継続的な見守り機能
(モニタリング)

預かり型支援
(一時預かり事業等)

訪問型支援
(ファミサポ、赤ちゃん訪問等)

いつも通い
なれた場に
情報や支援
サービスが
あって安心



拠点で、他の子どもの預かりの様子を見て安心して預けられる。

平成28年度子ども・子育て支援推進調査研究事業
親子の交流の場の提供を中心とした地域子育て支援拠点事業の実践状況等に関する調査研究報告書
(研究代表者: 橋本真紀 関西学院大学教育学部教授、
多機能型子育て支援の研究代表: 渡辺顕一郎 日本福祉大学子ども発達学部教授)より

～地域子育て支援拠点における多機能型支援の先進事例～ 神奈川県横浜市「港北区地域子育て支援拠点どろっぷ」の取組

厚生労働省資料より



多機能型支援実施拠点の概要

NPO法人びーのびーのが運営する地域子育て支援拠点事業「港北区地域子育て支援拠点どろっぷ」は、専用施設で実施しており、そこでファミリー・サポート・センター事業（以下「ファミサポ事業」という。）と利用者支援事業を併せて実施している。平成13年度から社会福祉協議会に委託されていたファミサポ事業が平成22年度に拠点に移管され、また、利用者支援事業は拠点事業の地域機能強化型を引き継ぎ、平成28年1月から実施している。

多機能型支援のポイント

～ 親子の居場所となる「場」での多機能化支援は、高い効果が見込まれる ～

○ 「ひろば＝場」を持っていることは、かけがえのない財産である。

（常設の場があるという強みが多様な人との出会いや交流を生み出し、必然的に子育て家庭に必要な資源、多機能化をもたらす。）

○ 敷居が低い「安心できる場所」で、ファミサポ事業など他の支援活動を見て知ることができる。

（知っている顔がいつでもいる「安心できる居場所」で他の子育て支援活動の様子を実際に自分の目で見て、どんな雰囲気で活動しているかを理解することができる。）

○ 子育て親子の不便を解消できる。

（複数の子育て支援事業がワンストップで行われることで、様々な子育て支援事業を利用するために、親子連れで拠点以外の場所に出向いて登録等をする手間が省ける。）

○ 妊娠期からの切れ目ない支援が効果を上げている。

（産前からのアプローチにより、地域で子育てを体現できる場となっている。）

多機能型支援による効果

○ 利用者支援事業が拠点にあることで、親が他の親に支えられることや、親子を他者との関わりの中で見ることで、利用者支援担当者が支援の手立てや方向性の検討が多方面からできるようになり、子育て支援の幅が広がった。

○ 拠点でファミサポ事業を実施していることから、拠点利用者がファミサポ事業の様子などを自分の目で見ることで、子どもを他者に預けても安心であることを理解してもらう機会となり、また、拠点利用の際にファミサポの登録ができるなど「ワンストップ」の効果などにより、拠点でファミサポ事業を実施してから登録数が20倍以上になった。

○ 拠点でファミサポ事業を利用した親子が別の日に拠点に遊びに来た際に、ファミサポ事業の感想や意見を聞き取り、ファミサポ事業が更に利用しやすくなるよう、利用方法などを見直し改善することができた。

○ ファミサポ事業は小学校6年生まで利用が可能のため、拠点自体は未就学児対応施設ではあるが、下の子が拠点を利用した際に、上の子の相談に関わるケースに対応する他、学童・思春期まで見通せる場となった。

基礎データ

【活動の様子】

横浜市	人口：3,735,843人(平成29年1月1日) 出生数：31,819人(平成28年)
拠点開始年度	平成17年度から
運営主体	NPO法人びーのびーの
多機能型支援の実施事業	ファミサポ事業（平成22年度から） 利用者支援事業（平成28年1月から）
職員数	常勤職員7名、非常勤職員11名 その他ボランティア等
当該施設の 利用件数 (平成28年度)	拠点事業 約60組～70組(1日平均) ファミサポ事業 約700件～900件 (1か月) 利用者支援事業 約70件 (相談件数) (1か月平均)

今後の展望・課題

- 柔軟な一時預かりの必要性、閉館後の夜間のフォロー体制
- 情報共有や支援のあり方を検討する時間の確保
- 支援に関する協働視点、エンパワメントの視点、支援に関する意識の共有
- 包括的な調整役の配置 19

子ども時代を過ごす地域ができること

(1) わかものは、一旦は学校、就職で地元を出る。

→ また戻ってきたいと思える地元であること

- ・子ども時代が豊かである
- ・義務教育の間に赤ちゃんとのふれあい授業
- ・家庭科学習での実習(調理)やライフプランニング授業
- ・わかものの意見が尊重される
- ・わかものの居場所がある
- ・同世代の活躍の場がある
- ・子育てしやすい環境がある

「地域子育て支援拠点どろっぷ」での取り組み



♪さまざまな学生との関わり♪

- ◆総合学習での見学
- ◆看護学・医療などの実習生の受入れ
- ◆フィールドワーク・インターンシップ・サービスラーニングの受入れ
- ◆卒論や研究論文としての受入れ
- ◆職業体験・ふれあい体験授業として
- ◆一般の関心ある学生からの個別受入れ

2017年度
実働613人

わかものを受け入れた地域ができること

(2) わかもの時代(学生、就労)に、家以外にも実家機能をもつこと。

- ・ひとり暮らしの高齢者宅での下宿
- ・ドイツでは、「多世代ハウス」
子どもから高齢者、障害者、外国人を対象とした包括的な活動。
カフェ、食事、講座等。
- ・地域でのボランティアの場が多数ある。
- ・学生時代に地域子育て支援拠点、一時預かり事業、
放課後児童クラブ、学習支援等で、子どものケアや遊び相手
学習支援の経験

→ 孤立を防ぎ、暮らしや子育てを体験する機会を増やす

子どもが大人になるプロセスに社会が関わる

●学齢期

- ・赤ちゃんをケアする経験



ケアできる自分の発見、赤ちゃんの理解

- ・大学生や多世代の人との関わり



大人になるイメージ、生活感の獲得

●乳幼児期

多世代の人の関わり



社会への基本的信頼

乳幼児期

学齢期

子育て期

●子育て期

妊娠期からの学びの機会の保障
子どもや家庭で過ごす時間の権利



夫婦で共に育てるイメージの共有
子育て支援サービスを上手く活用
企業の理解(重要)

家庭を支える新たなつながりづくり

地域子育て支援拠点の役割

1. 地域子育て支援拠点、利用者支援事業の着実な量的拡大
2. 人口減少社会における寄りそい型支援の中核として
3. 就労家庭の増加 すべての子育て家庭を支える役割
4. 多機能型子育て支援の可能性
5. 子育て世代包括支援センターとの連携・協働
6. 市区町村との連携・協働